

# 坂出駅周辺再整備基本構想（案）における パブリックコメントの実施結果について

## 1. パブリックコメントを実施した計画案

坂出駅周辺再整備基本構想（案）

## 2. 意見募集の要旨

四国の玄関口ともいえるJR坂出駅を中心とする中心市街地におけるまちづくりの方向性を示すことで、本市が抱える地域課題の解決とめざまちづくりの将来像の実現につなげるものとして「坂出駅周辺再整備基本構想(案)」を作成した。

これからのまちづくりにおいては、課題を的確に捉えた長期的視点に基づく持続可能なまちづくりが必要であり、行政のみならず民間との連携による地域活力の維持・向上が不可欠であると考えられ、そのためには、地域における多様な主体と新たなまちの価値を創造するビジョンを共有することが重要であることから、市民や関係者の皆さまから広くご意見をいただきたく、パブリックコメントを実施した。

## 3. 案の閲覧場所

- ・ 坂出市政策部政策課公民連携・DX推進室（坂出市役所 本館3階）
- ・ 各出張所
- ・ 市ホームページ

## 4. 意見の募集期間

令和5年2月7日（火）～ 令和5年3月6日（月）（1ヵ月間）

## 5. 意見を提出できる方

- ・ 市内に住所を有する方
- ・ 市内に事務所または事業所を有する方および法人等
- ・ 市内の事務所または事業所に勤務する方
- ・ 市内の学校に在学する方
- ・ その他、本構想に利害関係を有する方および法人等

## 6. 意見の提出方法

- ・ 郵送
- ・ 入力フォーム
- ・ ファックス
- ・ 電子メール
- ・ 直接持参

## 7. 意見の提出件数

17名から38件

## 8. 意見に対する回答および考え方

別添のとおり

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
1-1.目的			
1	個人 (60代)	<p>この計画のターゲットは、「主に子育て世代の女性」とありますが、あえて「女性」と書くところに違和感を感じます。</p> <p>「子育て＝女性」という時代ではないと思います。子育て世代の女性という視点でこの構想を見てみても、敢えて女性を意識させる提案が感じ取れません。アンケートは子育て世代へも実施しているようですが、ワークショップは学生のみを対象として実施されていると思います。</p> <p>この構想を作るにあたって、「女性」の意見はどのように取り入れられ、反映されているのでしょうか。例えば検討するメンバーに何人中何人、女性がいたのでしょうか。</p> <p>「子育て世代に選ばれるまちづくり」と言うのであれば、保育所や幼稚園、小中学校の整備(更新)もこの構想でもっと触れてほしいです。</p> <p>この構想は箱物を作るためのものだと思いますが、人の生活にはソフト面の充実も大切だと感じます。</p>	<p>本基本構想において、ターゲットを「主に子育て世代の女性」としてありますが、女性だけに特化しているものでも、子育て＝女性としているものでもありません。子育てには、様々な世代や様々な人が関わることを認識し、全ての人が心地よく過ごせる居場所づくりを行うこととしております。</p> <p>一方で、今後のまちづくりについては、JR坂出駅の交通利便性の高さや、駅周辺での新規住宅供給、高い昼間人口比率に象徴される仕事の豊富さといった、坂出の強みや可能性を活かすことが重要であります。今後、暮らしの満足度を向上させることで「働くまち」からイメージの転換を図り、「働くまち」と「住むまち」が両立できるまちづくりをめざしています。「住むまち」には、日々の暮らしの中で、満足感や幸福感を感じられるような「居場所」「機会」がいかに多く存在するかが重要であり、価値観の多様性や居心地のよさ、安全性、環境への優しさなどを強化することで、子育て世代をターゲットに、選ばれるまちにしていく必要があると考えております。</p> <p>本基本構想の策定にあたって、子育て世代も含む一般アンケート、高校生を対象としたアンケート、市外在住の市内勤務就業者を対象としたアンケートを実施し、全体総数2638件のうち約67%にあたる1770名の女性の方からご回答をいただいており、加えて、13名の外部有識者から構成される「さかいで再生会議」を立ち上げ、2名の女性の委員にもご意見いただきました。また、現在、策定に取り組んでいる「坂出緩衝緑地再整備基本計画」においても、これまでの行政主導による整備ではなく、子育て中の方もふるってご参加いただけるよう一時保育を実施する中、高校生から高齢者まで様々な世代の48名(うち女性23名)の方々に応募いただき、ワークショップを通じて夢やアイデアを思う存分議論していただいております。</p> <p>子育て支援においては、令和2年に策定した「第2期さかいで子ども・子育て支援プラン」と保育所・幼稚園施設については、令和元年に策定した「坂出市就学前施設再編整備方針」、小・中学校施設については、平成20年に策定した「学校再編整備実施計画」や令和3年に策定した「坂出市学校施設長寿命化計画」等を基礎資料として「坂出市学校再編整備検討委員会」から令和4年に答申を受け、再編整備のあり方について検討しており、それらと整合・連携を図り、より一層の効果発現につなげてまいります。</p> <p>本基本構想においても、施設整備後の市民の皆さまの継続的な関わりが重要であると考えており、ご意見いただきましたように、ハード面のみならず運営や利用といったソフト面の両面から魅力的な場の創出につなげてまいります。</p>
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方 (1)再生コンセプト			
2	個人 (不明)	<p>今後は全ての意見の提出方法に、手話(対面・動画)、点字、音声ファイルでの提出も可とし、聴覚や視覚などに支援が必要としている人々に配慮すべきだと思う。</p> <p>SDGsの観点からも「誰一人取り残さない」を念頭に、もう少し柔軟に取り組んでほしいと思う。</p> <p>それを踏まえて本構想も考えてはどうか。</p> <p>これからのことをひとつひとつで検討するより、日常・非日常にも活かせる、また、特定の人だけでなく全ての人に活かせるという目線で考えるだけでも、市全体の未来構想につながるもの・ことが見えてくると考える。</p>	<p>ご意見頂きましたように、意見の提出方法についてだけではなく、本基本構想の今後の展開においてもSDGsの観点を持って取り組むべきであると認識し、合理的配慮の提供等も含めて検討してまいります。</p> <p>今後の施設整備においても、インクルーシブな仕様は重要であり、誰にとっても心地よく過ごせる居場所を創出することで、様々な世代が共存・交流し、様々な活動がまちの中に溢れ、様々な人と人とのつながりが生まれるような「みんなの“ココちよさ”がかなうまち」を市民の皆さまと共創してまいります。</p>

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
3	個人 (70代)	<p>非常によくまとめられていると思います。ただ、インパクトが無く何か坂出の将来に夢を抱かせるような発信力、いわゆるアピール度が低いのではないのでしょうか。</p> <p>当然ながら実現可能なプランが必要でしょう。しかし、あまりにもありふれたプランでは、坂出の10年先20年先に残るものとして、最高のプランなのかを考えるべきではないでしょうか。</p> <p>早く早くではなく、じっくりと時間を掛けて構築すべきだと思います。</p> <p>坂出駅前前の開発プランとして、香川県内に無い構築を考えてもいいんじゃないですか。</p> <p>例えば、地下街をつくるとか、地上にはホテル+高層マンションというビッグプロジェクト等市民が驚くような構想を立てて実現に向けて走り出すべきでしょう。という資金が無い、坂出市には金が無いと言われるでしょうが、地元商人や事業家が坂出市の為に投資をしようという働きかけをしていないんじゃないですか？「何かが起こる坂出市」強烈なメッセージを市民に発信して頂くことを期待します。</p>	<p>本基本構想の実現においては、人々が訪れたいくなる魅力的な場の創出のために民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用するとともに、公共と民間でビジョンを共有することにより、駅前空間再編や拠点施設整備完成後の運営に民間のノウハウを最大限活用することとしています。さらに、市民や民間事業者等、多様な主体との連携や協働により、魅力ある持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。</p>
4	個人 (40代)	<p>中心市街地に子どもが遊べるようなある程度の大きさのある公園がほしい。</p>	<p>現在、市内には24箇所、面積にして62.73ヘクタールの都市公園が存在し、市民一人当たりの面積は12.39㎡/人と全国平均(10.24㎡/人)を上回っている一方で、本市の中心市街地(居住誘導区域)においては、市民一人当たりの面積が6.10㎡/人と国土交通省の都市公園の整備水準である都市計画区域16.07㎡/人、市街化区域10.12㎡/人、人口集中地区(DID)7.44㎡/人のいずれの水準も下回っており、中心市街地には市民の憩いの空間が少ない現状となっております。あわせて、その大部分を坂出緩衝緑地(東大浜緑地、西大浜緑地)が占めております。</p> <p>今後は、既存公園の有効な活用を含めて、子育て世代をはじめとする多様な世代が日常的に集い交流し、幸せを実感できるように公園の充実を図ってまいります。</p>
5	個人 (60代)	<p>地形が平坦でコンパクトな街は、とても気に入っております。ただ、市民のオアシスみたいな場所が少ないと感じていました。</p> <p>夏場の水不足の懸念がありますが、オアシスと言えば、噴水とか、せせらぎ、木々からのこもれび。散策をしたりベンチや階段に座って、緑や水の流れに癒やされたいです。</p> <p>維持管理が大変な箱物はもう必要ないと思います。市民が和めるオアシスを作って下さい。</p>	<p>本基本構想は、「心地よく過ごせる市民の居場所づくり」や「歩いて楽しいまちの実現」、「市民との共創によるまちづくりの推進」のコンセプトのもと「みんなの“ココチよさ”」がかなうまち(まちをひらき、未来をひらく)」をめざしています。</p> <p>整備にあたっては、頂いたご意見を参考にするとともに、市民の皆様の声をお聞きし、民間事業者の持つ知恵やノウハウ、資源等を活用して、よりよい公共サービスを提供する仕組みである公民連携手法を用いて事業を進め、様々な人々にとって居心地の良い居場所づくりに努めてまいります。</p>
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方（2）コンセプトを支える取組			
6	個人 (不明)	<p>坂出駅前のみでなく、人工土地や緑地帯・坂出港方向まで考えるなら、市内のどこからでも中心市街や各地域へ気軽に行き来できる交通面・移動手段(バス以外にもレンタル自転車+ヘルメットなど)も計画に入れるといいのではないかと。</p> <p>「ウォーカブル」はいいが、歩行が困難な人もいる。高齢者は運転免許証返納は生活が不便なため躊躇している人が多いのが現状。市全体の移動が便利だと、年齢を問わず住民も訪問する人も帰省する人も、より動きやすくなり市内各地を訪問・観光できる。</p> <p>また市外からの人々は、市外へと観光や買い物せずとも坂出市で多くを行なえ滞在時間が長くなり、経済効果も見込めるのではないかと考える。</p>	<p>本基本構想におけるコンセプトを支える取組として、「新たなモビリティ導入等による市街地内移動の誘発」を掲げています。その中では、エリア間のつながりや回遊性を誘発するために人々の移動手段や中心市街地外からのアクセス、中心市街地内の移動に対し、モビリティの導入等新たな取組を行うとともに、社会実験による課題発見と機運の醸成を行うこととしています。</p> <p>さらに、取組にあたっては、市内だけに限らず、周辺市町との連携も視野に入れ、利用者の利便性向上を図ることとしています。</p> <p>いずれにいたしましても、頂いたご意見を参考に、高齢者から子どもまで便利で利用しやすい公共交通により、高齢者の外出機会増加による健康増進や、子育て世代への支援を目指し、安全安心に利用できる公共交通の充実と利用促進に努めてまいります。</p>

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
7	個人 (50代)	駅南口にあるヤドンのマンホール目当てに若い人が集まるのを見てると不思議な感じになる。商店街・人工土地・各公園などのディープなところにいるいろいろな仕掛けをして1日～2日かけて探してもらおうのも面白いかなと思う。	本基本構想の策定にあたり、市内の高校生を中心とした「さかいで未来会議」を開催し、高校生の目線から将来の坂出駅前拠点施設や坂出緩衝緑地について考えていただきました。その中で、「香川県が聖地となっている「結城友奈は勇者である」というアニメとのコラボを取り入れ、聖地巡礼を目的としたコーナーを作成することで観光客を呼び込むことにつなげてほしい。」などのご意見もいただいております。 また、頂いたご意見を参考にしながら、今後につきましても、市民との対話やワークショップ等を通じて、みんなの“ココチよさ”がかなうまちをめざし、市民の皆様と様々な観点から検討を進めてまいります。
8	個人 (40代)	坂出市に住むアーティスト山口一郎さんにシンボルとなる建物(図書館等)に絵を描いてもらいたい。瀬戸芸でも立ち寄れるようなスポットになって欲しい。	本基本構想においては、坂出人工土地エリアを“カルチャー・ゲート”と位置付け、文化活動拠点とし、人と文化の交流と創造の場としており、その他のエリアにおいてもアートに関連した施策の展開を検討してまいります。 香川県を拠点に活動されている画家の山口一郎氏の大胆かつ個性的な作品に代表されるようにアートの持つ影響力は大きく、瀬戸内国際芸術祭をはじめとするアートとの共存・連携は今後のまちづくりにおける重要な資源として欠かすことはできないと認識しております。
9	個人 (40代)	食料品だけでなく衣料品や雑貨等も買える大型のショッピングセンターが欲しい。今は市外へ買いに行っているので市内で買い物が大体出来る様にして欲しい。	本基本構想策定にあたり実施したアンケート調査においても、市民の皆さまから買い物や飲食店舗の充実を求める声が多くございました。 多様なニーズに応える大型商業施設も含め、生活に必要な不可欠となる商業機能の充実につきましては、民間事業者との対話を行い、まちづくりの観点からも、その波及効果や地域との連携も含めて検討してまいります。
2-4. 中心市街地再生の基本的な考え方（3）実現に向けたイメージ			
10	個人 (不明)	坂出北インターチェンジのフルインター化に伴い、番の州と宇多津方向との混み合う交差点の改善も含めて計画をしてもらいたい。 また、駅前、緑地帯と同様に各地帯で十分な駐車場を確保し、駐車後は徒歩、自転車、ミニバスなどで自由自在な動きができるようにすると思う。イメージとしては、坂出市全体をテーマパークと見立て、各整備地区をアトラクションと考える。そうすることで、わくわく感も含めて見えてくるものがあると感じる。	本基本構想の実現に向けたイメージとしては、多くの市民が車で中心市街地を訪れることを踏まえながら、既存施設の徒歩圏を繋ぎ合わせる位置に存在し、かつポテンシャルを有する6つのエリアに居心地の良い居場所づくりを行うことで、人々が心地よく過ごせる場を生み出しながら、それらの各動線をつなぎ、地域内に小さな回遊性を生み出していきます。生まれた回遊性を高め、重ねあうことで更なる滞在時間の増加や活動の多様化につなげ、にぎわいをまち全体に波及させていくことです。 施設整備に際しましては、6つの各エリアに駐車スペースを確保し起点とすることで、市内および周辺市町からの来場者も中心市街地内を歩いて楽しむことができるウォークアブルなまちづくりを展開していきたいと考えております。 また、本基本構想におけるコンセプトを支える取組として、「新たなモビリティ導入等による市街地内移動の誘発」を掲げています。その中では、エリア間のつながりや回遊性を誘発するために人々の移動手段や中心市街地外からのアクセス、中心市街地内の移動に対し、モビリティの導入等新たな取組を行うとともに、社会実験による課題発見と機運の醸成を行うこととしています。 本基本構想は、「心地よく過ごせる市民の居場所づくり」や「歩いて楽しいまちの実現」、「市民との共創によるまちづくりの推進」のコンセプトのもと「みんなの“ココチよさ”がかなうまち(まちをひらき、未来をひらく)」を目指してまいります。

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
11	個人 (60代)	JR坂出駅から香風園までの歩道や旧市立病院跡地は、高架下も含めて公園化して、ベンチや屋台、キッチンカーなどが出店しやすいスペースを設けるべきである。	JR坂出駅や旧市立病院跡地において居心地の良い居場所づくりを行うとともに、それらの動線をつなぎ、地域内に小さな回遊性を生み出します。また、生まれた回遊性を高め、重ねあうことで更なる滞在時間の増加や活動の多様化につなげ、にぎわいをまち全体に波及させていくことが重要であると考えております。頂いたご意見を参考にしながら、民間事業者の知恵やノウハウ、資源を最大限に活用し、サービスの向上に努めてまいります。
12	個人 (60代)	現在、「多くの市民が車により中心市街地にアクセスする」ことがわかっているにも関わらず、この基本構想の中では、駐車場整備が含まれていない。現在の地下駐車場を利用するしかないなら、無料で利用できることも含めて、料金体系を見直してほしい。駐車場について新たな取り組みがないならば、駅前の拠点施設は、駐車場を必要としない駅乗降者や中高校生の利用を中心に考え、気軽に立ち寄れるカフェや飲食店、雑誌や漫画が読める読書スペースや自習室、アンテナショップなどを整備するのが良いと思う。	昨年9月に実施いたしました市民アンケート調査におきましても、中心市街地を訪れる交通手段としては、自動車が全世代では60%と多数を占め、子育て世代に限ると85%となり、傾向が強くなる結果となっております。本基本構想の実現に向けたイメージとしては、多くの市民が車で中心市街地を訪れることを踏まえながら、既存施設の徒歩圏を繋ぎ合わせる位置に存在し、かつポテンシャルを有する6つのエリアに居心地の良い居場所づくりを行うことで、人々が心地よく過ごせる場を生み出しながら、それらの各動線をつなぎ、地域内に小さな回遊性を生み出していきます。生まれた回遊性を高め、重ねあうことで更なる滞在時間の増加や活動の多様化につなげ、にぎわいをまち全体に波及させていくことです。施設整備に際しましては、6つの各エリアに駐車スペースを確保し起点とすることで、市内および周辺市町からの来場者も中心市街地内を歩いて楽しむことができるウォーカブルなまちづくりを展開していきたいと考えております。
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方（4）居場所としての6つのエリアの特徴をふまえた方向性【坂出人工土地エリア】			
13	個人 (60代)	坂出人工土地における活性化や利用については、そこに入る店舗やそこまでの歩道の改善が重要だと思う。住宅の撤去、屋上の公園化が望ましい。	本基本構想において坂出人工土地エリアは、“市民ホールを核とした文化的活動拠点とし、人と文化の交流と創造の場”と位置付けております。今後、坂出人工土地周辺においては、ウォーカブルなまちづくりをめざして、歩行者空間の充実に取り組んでまいります。また、坂出人工土地における住宅の取り扱いや公園化につきましましては、そこに暮らす人たちなどと、地域の姿を考える対話を通じて検討してまいります。
14	個人 (70代)	人工土地周辺は、年々歩く人も少なくなり衰退して行くのが目に見えて分かります。地価も下がる一方でこれから良くなる様な兆しは全く見えません。駅周辺開発の事は地権者も多いし経費も掛かると思っていますので、まずは人工土地について開発を進めて行く事がこれからの展開にも良い兆しが見えるのではないかと思います。当人工土地を取壊す事も難しい上に放置しておくとも益々悪状況になります。ここは坂出市が権利部分の大部分を所有しているし屋上権を全部所有していると聞いています。10年位前に市営住宅部分を取壊し耐震補強をして空地にして開発すると言っていました、その後止めたと聞いています。そこで今ある市営住宅部分のみを取壊し広大な空き地にすれば図書館とか公民館とか公共施設にすると案も出てくるかも知れません。市所有部分だけ補強して市独自で開発すれば良いとおもいます。現在賃貸で入居している人には、民間の業者のノウハウも取入れて退去して貰う事が第一の先決問題であると思えます。	本基本構想において坂出人工土地エリアは、“市民ホールを核とした文化的活動拠点とし、人と文化の交流と創造の場”と位置付けております。今後、坂出人工土地周辺の歩行者空間においては、ウォーカブルなまちづくりをめざして、歩行者空間の充実に取り組んでまいります。また、ご意見のとおり、市営住宅の一部取壊しや耐震補強等の計画はございますが、坂出人工土地は、本市と民間が権利を所有する建物であり、計画を進めるためには、権利関係者等のご理解とご協力が不可欠であります。現在、今後の方針等について権利者の方々等と協議を行なっているところであり、坂出人工土地の適切な管理運営のため、引き続き、協議を行ってまいります。なお、今後につきましては、民間事業者等との対話を行い、まちづくりの観点からも、その波及効果や地域との連携も含めて検討してまいります。

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方（4）居場所としての6つのエリアの特徴をふまえた方向性【坂出緩衝緑地エリア】			
15	個人 (60代)	坂出緩衝緑地は、昔は塩田の盛んな地区で、住民の協力により整理が行われ現在に至っている。今の静けさを残してほしい。再整備は必要ない。	坂出緩衝緑地は、番の州地区や周辺の工業団地の開発に伴い、地域の方々の健康と生活環境の保全を目的として、昭和50年から6年の歳月を経て整備されたものです。しかし、40年余りが経ち、今では、木々がうっそうと茂り、安全面や防犯面に対する不安が市民の皆様から寄せられています。 また、市民の皆様を実施したアンケートや高校生ワークショップにおいても坂出緩衝緑地につきましては、「人が交流できる活動的な場にしてほしい。」というご意見とともに、「アート施設やカフェを併設しつつ、今ある自然をいかして落ち着いた居心地の良い空間にしてほしい。」というご意見も頂いております。 現在「坂出緩衝緑地再整備基本計画」の策定に取り組んでいるところですが、これまでの行政主導による整備ではなく、整備後も市民の皆様が心地よく過ごせる居場所として、また、多様な世代が集い、交流する市民活動の拠点として利用していただけるよう、市民の方々とワークショップ等を通じて皆様のお声を聞き、市街地の生活環境保全機能に配慮しつつ、長大な緩衝緑地をゾーニングしたうえで、最適な整備を検討してまいります。
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方（4）居場所としての6つのエリアの特徴をふまえた方向性【西運河入船エリア】			
16	個人 (30代)	同じ海辺の街でも神戸や淡路島はデートスポット等も沢山あり、若者にとって満足度が高い街は高齢者にとっても明るく楽しく過ごせると考えます。もともと病院機能は充実していますし、足りてないのは若さだと思います。ファミリー、若者が心地よく住みたくなる街づくりが求められます。	本基本構想において西運河入船エリアは、方向性として貴重な水辺をいかした親水空間の創出、島しょ部とのつながりを含めた港町坂出の発信と誇りの醸成、海の玄関としてネットワークをいかした他の港との連携等を掲げ、「水辺空間の活用により、魅力的な場を創出し、港町坂出を発信する場」と位置付けております。整備にあたっては、頂いたご意見を参考にするとともに、市民の皆様のお声を聞き、民間事業者の持つ知恵やノウハウ、資源等を活用して、よりよい公共サービスを提供する仕組みである公民連携手法を用いて事業を進め、様々な人々にとって居心地の良い居場所づくりに努めてまいります。
17	個人 (不明)	「瀬戸大橋の町、坂出」として海は身近、かつ生活の一部と感じている人も多くいると思う。海の駅を設けることで航路からの訪問者も期待できる。また、市民も企業・業者も活気のあるところには集まってくるため、よい効果は出てくると思う。また仮に、災害などで陸路に影響が出た際には、海路で物資や人の輸送が可能なの場合もあるのではと考える。	坂出港は、古くから瀬戸内海における海上交通の要衝として栄え、香川県の工業と坂出市の発展に大きく貢献するとともに、南海トラフを震源とする地震・津波の切迫性は増しているなか、耐震岸壁等の整備など安全安心の確保に努めているところであります。 一方で、「坂出には海辺で遊ぶような場所が少ない。」などの指摘もされていることから、本基本構想では、水辺空間の活用により魅力的な場を創出し、港町坂出を広く発信するため、西運河入船エリアを重点地区として設定しております。 貴重な水辺をいかした親水空間の創出は、居心地の良い歩きやすくなるウォーカブルなまちづくりにつながり、日々の暮らしの中で、満足感や幸福感を感じられる居場所・機会になるものと考えております。 水辺空間の活用につきましては、今回のご意見である「海の駅を設ける」など市民の皆様のお声を聞き、民間事業者の持つ知恵やノウハウ、資源等を活用して検討してまいります。

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方（4）居場所としての6つのエリアの特徴をふまえた方向性〔商店街エリア〕			
18	個人 (60代)	既存の商店街は暗く、商店街とのリンクは、無駄である。むしろ、商店街のアーケードを取り払い、車が入れるようにすれば、周辺の渋滞も緩和されるし、今後新しい店舗も増えるかもしれない。	本基本構想において商店街エリアは、“市民や民間主導のチャレンジにより小さな居場所やにぎわいを創出し、各エリアのつながりを生み出す場”と位置付けており、今後、ウォーカブルなまちづくりをめざす本市にとっては、各拠点をつなぎ中心市街地に回遊性を生み出す上で重要なエリアであると考えております。また、商店街エリア内道路につきましても、市民の皆様との対話やワークショップ等を通じて、みんなの“コトよさ”がかなうまちをめざし、様々な観点から検討を進めてまいります。
19	個人 (60代)	空き店舗が増えてゴーストタウン化しています。働く世代の方達のための住環境(リノベーション等)が提供できないでしょうか。(補助金制度等含む)	本基本構想において商店街エリアは、“市民や民間主導のチャレンジにより小さな居場所やにぎわいを創出し、各エリアのつながりを生み出す場”と位置付けており、利便性をいかした居住空間の創出とともに、空き店舗や空き地を活用したチャレンジの誘発を目指しています。頂いたご意見を参考にしながら、民間事業者の知恵やノウハウ、資源を最大限に活用し、民間事業者との対話を行いながら、中心市街地のにぎわい創出に向け、努めてまいります。また、現在、市内にある空き家の利活用を図り、本市への移住を促進するため、空き家バンク登録物件の改修工事に対し、空き家等を購入する者等へ補助金を交付しており、さらに、来年度からは香川県外の法人事業者または個人事業主が事業所として使用するための改修工事に対する補助も行ってまいります。また、老朽化した空き家を解体すると、住宅用地に対する固定資産税の特例措置が適用されなくなり、税額が高くなることから、老朽危険空き家の除却の障害となっていましたので、空き地としての流通や跡地の利活用を促進するため、本市では固定資産税の減免制度を設けるなど重層的な空き家対策に取り組んでいきます。
20	個人 (50代)	街のにぎわいを作り出す飲食店、雑貨店、観光業などには税金面、各種助成金などの優遇措置を講じてほしい。	本基本構想において商店街エリアは、“市民や民間主導のチャレンジにより小さな居場所やにぎわいを創出し、各エリアのつながりを生み出す場”と位置付けており、利便性をいかした居住空間の創出とともに、空き店舗や空き地を活用したチャレンジの誘発をめざしています。また、現在、本市の魅力のアピールし、集客力が高まるような事業やにぎわいを創出する効果が高いと認められるイベント事業である「坂出市民発!!にぎわい創出事業」を実施しております。さらに、来年度からは香川県外の法人事業者または個人事業主が事業所として使用するための改修工事に対する補助も行ってまいります。頂いたご意見を参考にしながら、民間事業者の知恵やノウハウ、資源を最大限に活用し、民間事業者との対話を行いながら、中心市街地のにぎわい創出に向け、努めてまいります。
2-4.中心市街地再生の基本的な考え方（4）居場所としての6つのエリアの特徴をふまえた方向性〔旧市立病院跡地エリア〕			
21	個人 (60代)	旧市立病院跡地の活用については、JR坂出駅や香風園と歩道で繋いでこそ、活性化が期待できる。	本基本構想のコンセプトの1つとして“歩いて楽しいまち”の実現を掲げております。歩いて楽しいまちを実現することで人々の滞在時間を増加させ、人・もの・ことと出会う機会を創出します。また、人々がまちを回遊することで、各所で生み出されたにぎわいをまち全体に波及させていくことは大変重要であります。旧市立病院跡地と香風園、市民ふれあい会館、JR坂出駅と連携した取組の展開などにより、「歩いて楽しいまち」の実現に向けて検討を進めてまいります。

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
22	個人 (30代)	<p>旧市立病院跡地エリアに図書館機能や公園機能を果たすゆとりある空間を作ってほしい。</p> <p>児童館や放課後教室、夏休み等に利用しやすいワークショップや教育セミナー、ネストン(高松にある英会話教室)などの臨時出店ができるような貸し出し会議室等が充実し、公民館やホール機能を果たす施設空間が望ましい。</p> <p>また、この周辺の文京地区エリアには塾が乱立しておりますが、親の送迎時の時間を有効に活用できるような施設やお店、カフェ等が少なく、高松や宇多津に比べて親と子が過ごしやすい空間が無い。また、運動を積極的に行えるようなエリアに道やエリア開発することで老若男女がウェルビーイングに過ごせて健康寿命が長く、子供にも優しい環境が整うのではないのでしょうか。エリア開発の中に、附属小学校、附属中学付近の青葉町、学園通り付近の開発が含まれていないことが残念です。このエリアは高速道路からも近く、伏石、綾川町のように上手に開発すれば新しい住宅地と歩いて過ごせる商業施設を融合し、学校アクセスの良い文化度の高い町にすることが可能です。クリニックも多数あることから、ニュータウンとしてカフェや朝、夜に心地よく過ごせる飲食店、パン屋、公園があると良いです。坂出市はとにかくユニークな店舗や一日を楽しく過ごせる空間が少なすぎると感じています。</p>	<p>本市の中心市街地の特徴として、JR四国管内第4位の1日平均約1万人の乗降客数を誇る利便性に優れたJR坂出駅を中心に、多くの人が日常的に利用していることがあげられます。北部に位置する工業地帯への通勤や、駅周辺に位置する4つの高校をはじめとした幼、小、中学校への通学により、他の自治体からの流入(16,862人)が流出(10,101人)より多くなっており、昼夜間人口比率が高い水準にあり、多くの来訪者があります。また、JR坂出駅は、交通インフラとの結節拠点ともなっております。</p> <p>深刻な人口減少に加え、モータリゼーションや、市外への魅力的な商業施設の立地などにより、駅北側に位置する商店街は空き店舗が増加し、商業機能の低下に伴い、中心市街地のにぎわいは失われつつあります。また、アンケート調査においても、高校生が放課後を過ごす場所として、「市内高校通学で市外居住者及び市外高校通学で市内居住者の約8割、市内高校通学者で市内居住者においても約3割が市外で放課後を過ごす。」と回答しているように、坂出市の強みが強みとしていかされていない現状にあります。</p> <p>こうした課題を解決し中心市街地のにぎわいを創出するために、「コンパクトシティ+ネットワーク」の考え方に基づくまちづくりを推進していく必要があります。そのためには、公共施設の再編をおこない、利便性の高い駅周辺地域におけるより効果的な機能配置を検討する必要があります。加えて、駅周辺だけでなく中心市街地全体のにぎわいを創出するためには、駅利用者や南側に位置する文教地区からの人の流れを北側に位置する商店街に波及させることが重要と考えております。</p> <p>そのため、拠点施設はその中継地点としての役割も有することから、駅前に立地する大型商業施設との連携も視野に入れて、商店街に隣接した駅前北口に整備することが必要不可欠であり、これを呼び水とし、にぎわいを中心市街地に波及させ、エリア全体の評価をあげ中心市街地の活性化につなげるものであります。</p> <p>これらを踏まえ、中心市街地再生の起爆剤となりうるのは坂出駅前の再整備であるとの観点から、本基本構想では、坂出駅前エリアを重点地区の1つとし、「子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、中心市街地再生を牽引する場」と位置付けております。</p> <p>駅前空間再編における拠点施設には、子どもから高齢者まで幅広い世代が日常的に利用する図書館機能、子どもたちが安心・安全に遊ぶことができる子育て支援機能、多くの人が集い、交流する市民活動の拠点機能、市外からの来訪者が市内の魅力や情報が得られる拠点機能を付加することで、全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所の実現につながると考えております。</p> <p>拠点施設の整備にあたりましては、求められる機能について、類似する既存の公共施設を再編し、機能を集約・複合化することで、効果的な整備や相乗効果の創出、財政負担の最適化を図るとともに、駅前にふさわしく必要な都市機能の創出につなげてまいります。</p> <p>旧市立病院跡地エリアにつきましては、坂出駅や南側に集積する高校などの教育施設と近接している立地を生かし、駅前拠点施設とも連携を図るとともに、当エリア周辺への波及効果も鑑みながら、頂いたご意見を参考に坂出駅南側の憩いの空間創出につなげ、「市民が気軽に過ごせる場を創出し、ゆとりを生み出し、市民が成長できる場」となるよう検討を進めてまいります。</p>



坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
23	個人 (60代)	「学生のまち」を目指すことを提案します。具体的には、市立病院跡地の広大な公有地の有効活用の一案として大学誘致を望みます。通学圏は香川県内、特に（人口の多い）岡山をターゲットとし、解放された都市公園のある大学としてはどうでしょうか？ 高校生が多いまちですが、卒業すると県外の大学へ行きそのまま就職というコースが多いと思われる。市内に4つの高校を有する市なので、大学もあり、働く環境の良い地元就職もできるとなると地元の親たちにとってもベストではないでしょうか？ 高松駅には新たに大学が進出します。また、宇多津町には短大があるだけでまち全体がにぎわっています。	本基本構想において旧市立病院跡地エリアは、“市民が気軽に過ごせる場を創出し、ゆとりを生み出し、市民が成長できる場”と位置付けており、文教地区に近接しており、市民が成長でき、育てる場の創出をめざしています。 頂いたご意見のように、大学や専門学校が本市に立地することにより、教育の充実はもとより、飲食等の消費需要による経済効果、さらには、卒業後の地元就職などの地域経済の活性化も期待されるところであります。しかし、これまで就職フェア等の開催にあたって大学等を訪問した際に学校関係者と情報交換に努めてまいりましたが、現在のところ、本市への大学立地に係る情報は得られていない状況です。 今後につきましては、民間事業者の知恵やノウハウ・資源を最大限に活用し、民間事業者との対話を行いながら、香風園および市民ふれあい会館と連携した取り組みの展開とともに、坂出駅南側の憩いの空間の創出につなげるよう努めてまいります。
24	個人 (40代)	市内に大学・専門学校等を誘致してほしい。 高校までは学校数が多いのに大学がないため、進学タイミングで他所に人が出てしまっている。	
3-1.坂出駅前エリアにおける居場所としてのエリアの特徴をふまえた方向性			
25	個人 (50代)	JR坂出駅前立地する大型商業施設の3階にイベントホール、ライブハウス、格闘技などによるにぎわいづくりをして盛り上げてほしい。	JR坂出駅前に立地する大型商業施設については、長期にわたり多くの市民の日常生活において親しまれております。まちづくりの観点からも、頂いたご意見を参考にしながら、民間事業者との対話を行い、中心市街地のにぎわい創出に向け、引き続き連携を図ってまいります。
26	個人 (60代)	JR坂出駅の交通利便性からマンションが建設されると子育て世代、働く世代の方が増えます。市の役割として先進地の事例も参考にしながら検討していただきたいと思っております。	本市では、交通利便性が高く、一定程度の都市機能が集約した都市の中心地域において、都市機能の維持・誘導による生活利便性の確保を図るとともに、その周辺地域の居住誘導により都市機能の存続を支える人口密度を確保し、併せて地域交通ネットワークを形成することにより、財政的にも持続可能な「コンパクトシティ＋ネットワーク」の考え方に基づくまちづくりを推進しています。 今後は、頂いたご意見を参考に、JR坂出駅の交通利便性の高さなど、本市が持つ優位性を活かし、民間事業者の知恵やノウハウ・資源を最大限に活用し、民間事業者との対話を行いながら、利便性をいかした居住空間の創出に努めてまいります。
27	個人 (60代)	JR坂出駅東側に位置する市民広場は、日常的にキッチンカー等が出店したりできるようなスペースや電車待ちに活用できるようなカフェやベンチなどの改善が必要である。	本基本構想において、市民広場も含めた坂出駅前エリアは“子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人のための「まちのリビング」と呼べる居場所とする”ことで、中心市街地再生を牽引する場”と位置付けており、頂いたご意見を参考にしながら、日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間を創出してまいります。
3-3.坂出駅前エリアにおける現況と課題			
28	個人 (20代)	JR坂出駅北側広場の花壇やベンチの塗装が剥がれていたりしている。塗装を行うなど維持管理に努めてほしい。	様々な人々にとって居心地の良い居場所づくりを行う上で、施設の維持管理は非常に重要であると考えております。 JR坂出駅前の整備においても、整備するだけでなく、その後の適切な維持管理手法も含めて検討してまいります。

坂出駅前周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
3-4.坂出駅前エリアにおける再整備の考え方（2）拠点施設整備の考え方			
29	個人 (70代)	<p>拠点施設の整備について、高校生のにぎわいを誘導する図書館機能を核とすることは大賛成であるが、図書館機能に加えて飲食の場も是非誘致してほしい。神奈川県藤沢市の駅前に、図書館・飲食機能・デパートが一体となった場所があり、是非参考にしてほしい。</p>	<p>JR坂出駅前については、市民アンケートにおいて、買い物環境や雰囲気の良い飲食店を望む回答が多く、高校生アンケートにおいても、気軽にしゃべりできる場所・居心地の良い場所を望む回答が多くありました。坂出駅前エリアは、“子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、中心市街地再生を牽引する場”と位置付けており、それを実現するために「図書館機能を核とした複合施設とすることで様々な人が訪れ活動できる場を生み出す」ことを目的とする拠点施設の整備を検討しています。</p> <p>頂いたご意見を参考にしながら、民間事業者の知恵やノウハウ・資源を最大限に活用し、民間事業者との対話を行いながら、「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の実現につなげるよう駅前空間再編に努めてまいります。</p>
30	個人 (30代)	<p>駅前に図書館はいりません、駅前には大きな商業施設をきちんとリニューアルして、駅前の車だけが回遊している空間ではなく、北側の大型施設の誘致と両立した商店街のリニューアル(アーケードを外す)ことで歩いて楽しく過ごせるエリアにすることが大切だと思います。駅で降りてきた人が学校だけに限らず遊びに来れるようにしていただきたい。IKEAやニトリ、リビング店舗も少ないのでファミリーで過ごしやすい。</p>	<p>本基本構想において、市民広場も含めた坂出駅前エリアは“子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、中心市街地再生を牽引する場”と位置付けており、日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間を創出しております。</p> <p>また、JR坂出駅前に立地する大型商業施設については、長期にわたり多くの市民の日常生活において親しまれております。まちづくりの観点からも、頂いたご意見を参考にしながら、民間事業者との対話を行い、中心市街地のにぎわい創出に向け、引き続き連携を図ってまいります。</p>
31	個人 (40代)	<p>図書館は美術館やカルチャーセンター、本屋、カフェ等一体型が良い。学生中心にいろんな人が集まれる施設にして欲しい。</p>	<p>本基本構想において、坂出駅前の拠点施設整備につきましては、「図書館機能を核とした複合施設とすることで様々な人が訪れ、活動できる場を生み出す」と位置付けております。子どもから高齢者までの幅広い世代が日常的に利用する図書館機能に、子どもたちが安心・安全に遊ぶことができる子育て支援機能、多くの人が集い、交流できる市民活動の拠点機能、また、市外からの来訪者が市内の魅力や情報が得られる拠点機能を付加することで、全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所の実現につなげることであります。</p> <p>また、本基本構想の策定にあたっては、次世代を担う高校生等に、本市の現状について理解を深めてもらうとともに、将来の坂出駅前複合施設や坂出緩衝緑地について、香川大学の協力のもと、グループワークを通じて、高校生の目線から考えてもらうものとして「さかいで未来会議」を開催し、学生の皆さまに利用してもらるようにニーズの把握にも努めております。</p>
32	個人 (40代)	<p>拠点施設「まちのリビング」に市民の困り事を気軽に相談できる窓口ブースを設置してはどうか。図書館等の公共施設は困っている方も気軽に入りやすい為、まずきっかけを作り、そこから支援機関に繋いだり、そこで解決できるものは、そこで解決したら良いと思う。</p> <p>例えば、大学生や短大生や専門学校生による学習指導の相談、医療職による子供の発達や心と体の健康や食生活の相談、福祉職による障がい者や引きこもりや生活困窮者の困り事相談、職安職員による職業紹介や訓練や職場のハラスメント相談、県警OBや警察ボランティアによる子供のいじめや女性への暴力や高齢者への詐欺防止の相談、在勤外国人やそのご家族への生活相談。</p> <p>県警OBや警察ボランティアを配置する事で、放課後や夜間に高校生等も安心して勉強でき、また子供へ社会のルールを守る事の大切さを教えることができ、落ち着いた居場所を提供する事に繋がるのではないかと。</p>	<p>本基本構想において、坂出駅前エリアに求められる場の1つとして様々なサービスや支援を受けられる場としてあります。</p> <p>近年では、人々の意識や価値観の変化、生活様式の多様化に伴い、まちづくりにおいても新たなニーズへの対応が求められていることから、誰もが気軽に立ち寄り「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の実現には、多様な主体との連携が重要であり、市民の皆さまと共に継続的に関わり続けることで、コミュニティを育み、そこで暮らす人たちが自らの地域の姿を考えるまちづくりにつなげてまいります。</p> <p>また、利用しやすい駅前空間の創出には、日常と非日常のにぎわいにあわせて、安心・安全であることが不可欠であり、頂いたご意見を参考に、利用するすべての人にとって落ち着いて過ごせる空間についてソフト面とハード面の両方の観点から検討してまいります。</p>

坂出駅周辺再整備基本構想（案）における意見に対する回答および考え方

整理番号	提出者の区分	意見の内容（要旨）	検討結果（市の考え方）
33	個人 (60代)	<p>「現状の市内公共施設の中でも多くの利用者数があり、多様な使い方が可能な図書館機能を核とする」新しい施設を「市民の居場所の実現につなげる」には、現在の大橋記念図書館が、資料も人も充実しており、関係機関との連携がうまくいっていることなど、現在の図書館利用者が多い根拠を理解し、それを踏まえる必要があると思う。新しくすると、従来のやり方を踏襲すべきところをきちんと見極めてほしい。</p> <p>新しい図書館の整備、その運営については、駅利用者、中高生だけでなく、現在の図書館利用者である市民の意見を広く聞き、慎重な計画を望む。（市民との共創）のため、市民との対話やワークショップを定期的を実施して欲しい。</p>	<p>本基本構想における拠点施設の考え方は、多くの利用者があり多様な使い方が可能な図書館機能を核とすることで、子どもから高齢者まで様々な世代にとっての学びの場や高校生が放課後を過ごすことができる場を生み出し、誰もが気軽に立ち寄れる「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の実現につなげることとしております。</p> <p>また、本基本構想のコンセプトの1つとして“「市民との共創」によるまちづくりの推進”を掲げております。市民の皆様や民間との共創により、持続可能なまちづくりを実現することで、まちの価値向上に努めるとともに、坂出への愛着とコミュニティ、誇りを醸成し、子育て世代や若者が住み続けたいまちを目指しています。</p> <p>さらに、現在、策定に取り組んでいる「坂出緩衝緑地再整備基本計画」においても、これまでの行政主導による整備ではなく、子育て中の方もふるってご参加いただけるよう一時保育を実施する中、高校生から高齢者まで様々な世代の48名の方々に応募いただき、ワークショップを通じて夢やアイデアを思う存分議論していただいております。</p> <p>同様にJR坂出駅前の拠点施設整備にあたりましても、市民の皆様との対話やワークショップ等を通じてご意見をお聞きするとともに、民間事業者の持つ知恵やノウハウ、資源等を活用して、駅前空間再編に努め、ビジョンの実現につなげてまいります。</p>
34	個人 (60代)	<p>拠点施設の考え方はいいと思うが、賑やかを期待したいなら、若者だけでなく、お年寄りが集まるように工夫しなければいけない。人口の半分はお年寄りであり、お年寄りが集まるスーパーマーケットなどの出店も必要である。</p>	<p>本基本構想における拠点施設の考え方は、子どもから高齢者までの多様な世代が共に過ごせる快適で居心地の良い場をめざしております。スーパーマーケット等の導入機能につきましては、今後、民間事業者等との対話を通じて、人々が訪れたい魅力的な場の創出につなげてまいります。</p>
35	個人 (30代)	<p>ホテルも誘致してほしい。今あるホテルは古いので、観光面でも不十分。せっかくの海の見えるエリア、生かして欲しい。</p>	<p>昨年9月に実施いたしました市民アンケート調査におきましても、坂出駅前に宿泊施設を求めのお声をいただいていることから、本基本構想においては、坂出駅前エリアの1つの方向性として「四国の玄関口として、市外から訪れた人が滞在でき、市内の魅力や情報が得られる来訪者にとっての拠点機能を備えることで、交流人口の拡大につなげる」ことを示しております。</p> <p>今後、坂出駅前空間の再編を進めていくうえで、優れた交通利便性も含めた坂出駅前エリアが持つポテンシャルを最大限に生かすために、市民の皆様や民間事業者との対話等を通じて、坂出駅前における宿泊施設設置の可能性について検討してまいります。</p>
36	個人 (50代)	<p>駅の近くにホテル(会議室・宴会場を備えた)を誘致してほしい。</p>	
37	個人 (50代)	<p>基本構想では触れられていないが、坂出駅前で現状無いものが宿泊施設の整備である。丸亀駅前には複数件の全国展開をしている気軽に泊まれる宿泊施設が新規進出している。四国第4位の乗降客数を誇る坂出駅前に宿泊施設がないのは残念ながら坂出が選ばれていないということである。交通至便な坂出駅にもかかわらず宿泊施設が無いのはなぜなのか分析する必要がある。宿泊する場所がなければ県外からの観光客を坂出に呼び込むことが難しくなる。数年後には高松駅前に新県立体育館が完成する。完成すれば集客力のあるアーティストのコンサートなどが開催されると思われる。そうなると全国からたくさんの観光客も訪れるであろう。高松市内の宿泊施設が逼迫した時にマリナーで15分の坂出駅前に宿泊施設がないのでは、せっかくのにぎわいづくりのチャンスを逃してしまう。これは瀬戸芸やモンスターバッシュなどのイベントにも言えることである。</p>	
3-5. 駅前空間再編の検討			
38	個人 (60代)	<p>JR坂出駅北側および西側の地下駐車場の出入り口は合流しにくく、道路はクランクになっていて、流れが悪い。東西の道をスムーズに通るように、まっすぐにし、西の香風園前から、富士見町へ抜ける道の流れを良くする必要がある。</p>	<p>JR坂出駅周辺の整備を検討するにあたって、交通施設計画は、重要な事項であると認識しております。</p> <p>今後、より円滑な交通と有効な土地利用をめざして、道路法線や地下駐車場出入口等も含め、駅前空間の再整備に努めてまいります。</p>